

社說

新政府は自から立脚の地を認む可し

新政府にては、眞立ったる官吏の任命も粗疎終りたるが如し。是れよりはれひく、新政の施設に着手するふとならん。或は併闊にては、政黨内閣の初政必ず目覺ましき紹革を見る可し。とて注目するふとならん。れども我輩に於ては決して多を望まず。之を擧ぐる實際に無益なるを知ればなり。新聞紙上寫せの箇判の如く、審政黨が議會に多数を制して政府を受取りたり。とれば即日より政黨内閣の實を收めて何事も窓の如くなる可し。思はるれども事の真相は決して然らず。第一に海陸軍の如きは依然前閣員を留めて苟めにも政黨員の略を容れしめず。併し議會に多数を制し得るふと雖なりと云ふも貴族に觸るゝの思ひあるふとならん。又新政府は議會に多数を制し得るふと雖なりと云ふも貴族院には元々政黨歸りの古風家少なからず。其輩は決して今度の政府に心服するものに非ず。貴院は常に時の政府に賛成するものと思ふが如きは大なる間違にして。從來の政府は衆院の操縱に苦しみたる其反対に今後の政府は貴院の爲めに苦しむの奇相もわらん。大に注意すべき所のもの。裏り兎に角に新政府の基礎は未だ確實のものと認むるみど能はざる。其政府が一時の勢に乘じて、遂に大變を企てる。ふとあらんには忽ち失敗を免かれる可らず失敗は差支なけれども折角出来得りたる政黨内閣の運を拂りて其發達を妨ぐるは甚だ妙ならず。群輩の大に惜しむ所なれど或一家派の輩には此様大に手をとて如氣絶する可うとするものもあらん。これども、其の人々は於て勉めておとなを抑へ先づ自らの身辯より用心するふと所要なり。禮して御承認の實際に就ては、新政府の面目として自から世間に對する「新色」さを得ぬ。政治の教訓論へ政黨のや體を一切廢棄にする。その一部なり。其の外、もとより見をなるが如きあれ。事も何事も、其の外に即ち事ひを以て居て、其の外に即ち事ひを以て居ては如何に善美する。事も何事も、其の外に即ち事ひを以て居ては如何に善美する。事も何事も、其の外に即ち事ひを以て居ては如何に善美する。事も何事も、其の外に即ち事ひを以て居ては如何に善美する。

は甚だ面白わらざれば聽る。職名は其官の字を除くか更に別名に改むるふとし免に角に其趣と一似無葉の風にして、往來の弊習を一變可し其細目化就ては改善の述ぶるまでもなく當り常變に於て萬々承知の筈なれば片端より観々と若干して新政府の新色を示す可きものなり或は堂々たる大政治家は須らく國家の大経験を行ふ可し斯る些細の事柄は孰れにしても差支なしませ云はんがなれども日下の政界を見渡せば處にて是して目覺しき事業あるや否や我輩の所見を以てすれば、今之の政府を前文脣に比して人物に筋道の差はあれども舊教育學問と云ひ執れも文明進歩の主義にして此一點に於ては川藤も大隈も同主義の人物にして双方共に我輩の同一視する所のものなれども只前政府は年來の弊習として、威信臭の空威張りを悉にしたるが爲めに天下の人心を失したるに反し、政黨の壘は年々その空威張りに反対して政府の鼻を挫かんと心掛けなければゐる一體の人氣に投じて今日の如き勢力をも得たる次第なれ、双方の相違は正しく此一點にして政黨の立脚點として頗る一色所のものも全く此一點は外ならずるに一旦目的を達したる上は自から立脚の資を忘れ花々しき功名利成さんとし内治外交の大問題なみのみ云々して知らず謙らす舊學問の立場を踏み大に空戒張を図はすが、もはらんには部内の破裂を免かれざるのみか忍ちに一般の人望を失ひ見るを得ず、左もとては自から身を破るものと云ふには到底断乎て能くさうし所のもの終し、一歩は實際立脚するのでありまが、もはら政の之を行ふときには、即ちや成なるほじ、六年を以て爲めに政治を大學の教職と云はざるを専門教て断乎を望む者もいゝされども其の立場を譲らせるに至り、即ち、之なりそ行細る可きのみ我輩は其失敗を諒解して疑はざるものなり。

## 英國皇族の御來 華之對話

前年の大津事件の如き眞實不虚の出来事にして今日には萬々絶無を期する所なれども世の中には風と櫻花人を生じて実跡の怪我を見るのみと肝要にして假令ひ直接に御一身に觸るの危險なしとするも貴賓に對して苟めにあらんには我帝室に煩を及ぼし奉るのみならず海外に對して日本の面目を辱しむるの結果無禮の舉動を演するが如き狂漢を出すみると希留する所なり

# ○西班牙艦隊の全滅

卷之三

卷之三

卷之三

希望する所なり

と安全に送迎し率らんみど我輩の煩れ

成し成は他人の見る所にては無益の心

於ては警察の全力を擧げて設下保護の

なきを得ず由々しき大事にふそあれば

わらんに比被帝室に頼む及ぼし奉るの  
カ海外に對して日本の面目をヨウカ存し山ある

無禮の舉動を演ずるが如き狂漢を出す

の危険なしとするも貴賓に對して有

の渋渋たれあすを道の上に注意する  
きみと肝要にして限冷ひ直接に脚一身

中には風と發狂人を生じて案外の怪我

て今日は萬々絶無を期する所なれど

前年の大津事件の如き、眞實不虞の出来事

促す所のものは政府の権内にわらん陸

卷之三